

# 親子で読んでほしい絵本大賞

発表



今年も「親子で読んでほしい絵本大賞」が JPIC 読書アドバイザー 107人の投票で、10作品とベビー賞1作品に決まりました。選出のコメントは、おはなし会などの現場で実際に子どもたちに向けて絵本を読んでいるアドバイザーならではのものです。ぜひ、参考にしてください。また、編集部が候補作を厳選し、小誌読者のみなさんにも「読者賞」を投票いただきました。今回の読者賞は、3位と5位が同率となったため、あわせて6作品を発表いたします。

★コメントを寄せていただいた方の敬称略、順不同。 撮影/J・SAKURA

★ネコに舞い降りてくる小鳥のおしりの毛、1本1本まで愛らしい! この本は心にぽっかり穴があくってどんな気持ち? 体がぎゅうっとあつくなるってどういふこと? を子どもたちに教えてくれます。幸せなため息とともに。

(23期 原田早苗)

★ネコと小鳥の交流を美しい細密画で描いた珠玉のファンタジー。コブシの枝を束ねるのが、ネコの仕事。その枝を1日1本もらいに来る小鳥。それぞれの心情を思いつつ、その裏に隠された物語の続きを待ちたい。

(15期 豊嶋さおり)

★すがすがしく美しい絵から、音やお日さまのにおい、花や草、小枝の香りまでしてくるようで、すんなりと絵本の世界に入りこめます。ネコと小鳥がお互いに心を通わせる姿から、親子でいろいろ感じとってほしいです。

(20期 菅 弥和乃)

★美しく繊細な色とりどりの花や、ネコの気持ちが痛いほどわかる表現、小鳥の家族のあたたかさなど、子どもと読んでいるときにいろいろと話が広がり、親子で気持ちを共有できる作品です。

(29期 江頭祐子)

★花が香り立つような美しい絵本。ネコと鳥の交流に心があたたかくなり、まさに親子で読んでほしいと思いました。そして少し大きくなったら小枝の意味にも気づいてほしい。長く愛される絵本になると思います。

(29期 佐々木広美)

★動物や野山の風景が綿密で美しく、飾っておきたくなります。あたたかな内容に、高校生にも人気でした。ネコと小鳥のように互いを思い、歩み寄ることの大事さ、幸せについて語り合える作品です。

(29期 形部雅世)

★緻密で美しい絵と、詩的な文章にひかれました。ネコと小鳥の関係がかわいらしく、ページをめくると小鳥のさえずりが聞こえ、豊かな香りがするようでした。読み終えたあと、親子であたたかい気持ちになれます。

(22期 みゆき)

★ネコと小鳥の関係に、読み終えたあと心がほっこり。さらに、美しい精緻な絵に見入ってしまいます。宝物になりそうな、まさしく親子で読んでほしい絵本です!

(25期 川瀬利恵)

★小鳥とネコの自然界での関係や、主人公のネコの背景など重たいことにはまったく触れず、教訓的でもない静かであたたかい作品です。争いの絶えない今だからこそ、ご家族で穏やかにこの絵本を囲んでほしいと思います。

(28期 大友美佐子)



『ねことことり』

作/たてのひろし 絵/なかの真実  
1,650円 (世界文化社)



## 親子で読んでほしい絵本大賞とは

親子でもっと絵本を楽しんでほしい! いい絵本を親子に届けたい! との思いを込めて、JPIC 読書アドバイザークラブ(JRAC)により創設されました。選出方法: JRAC 会員61人からなる選考委員が、「この本 読んで!」2023年春号~冬号の4号で紹介された新刊絵本400冊の中から大賞候補作12作品を選出。それを、JRAC 会員有志が読み、12作品の中から1~3位を選んで投票しました。

※ JPIC 読書アドバイザークラブについての詳しい説明は、P59下部に記載しています。



連動フェア実施!

この特集で紹介した絵本のコーナーが以下の書店に設けられます。くわしくは下記まで  
こどもの本の店 ともだち  
(神奈川県横浜市)  
045-561-5815

# 著作権保護コンテンツ



## 『ハンナとシュガー』

文・絵/ケイト・ベアビー 訳/中井貴恵  
1,650円(イマジネーション・プラス)  
友だちのヴァイオレットのスクールバスのお迎えは、ママとイヌのシュガーです。ハンナはイヌがちよっと苦手。でも、シュガーがいなくなってしまう日、ハンナは心配でたまりません。



## 『はるです はるのおおそうじ』

文/こいでたん 絵/こいでやすこ  
990円(福音館書店)  
今日は春の大掃除。3匹のネズミたちは家具を外へ運びだしました。すると、そこを通りかかった動物たちがその家具をほめそやし、気のいいネズミたちは次々にあげてしまいます。



## 『なんでもモッテルさん』

文/竹下文子 絵/アヤ井アキコ  
1,540円(あかね書房)  
大金持ちのモッテルさんは、美術品から宝石、おもちゃまで、何でもいっぱいお屋敷に持っています。ところがある日、大嵐が来て、家じゅう丸ごとぜんぶ、吹き飛ばされてしまったのです。

## ロングセラー



『かえってきた はくちょう』  
作/花岡大学 絵/柿本幸造  
1,320円(ひかりのくに)  
村にある湖には、毎年白鳥たちが渡ってきます。昨年、大けがをしていた白鳥を保護し、手当てしてやったおさむは、今年もその白鳥が飛来するか、気が気ではありません。はたして、白鳥との再会はなるでしょうか。



## ロングセラー

## 『げんきなマドレーヌ』

作・画/ルドウィッヒ・ペーメルマンズ  
訳/瀬田貞二  
1,430円(福音館書店)  
パリのある屋敷に、12人の女の子が暮らしていました。12人はいつでも一緒に、いちばん小さなマドレーヌは元気いっぱい。でもある晩、盲腸炎で入院することになってしまいました。



## 『ジェニーのぼうし』

作/エズラ・ジャック・キーツ  
訳/石津ちひろ  
1,760円(好学社)  
おばさまがプレゼントしてくれる帽子を今か今かとワクワクしながら待つジェニー。でも、届いた帽子はシンプルで何の飾りもありません。みんなのように花飾りのすてきな帽子を夢見ていたのに……。



## 『ピースケのいえで』

作/たかどのほうこ  
1,540円(童心社)  
ピースケは、のぶちゃんのウサギのぬいぐるみ。遊びに来ていたみどちゃんの手提げに飛び込んで、家出をしました。みどちゃんの家では、ほかのぬいぐるみたちがピースケの身の上話を聞いて同情してくれました。

新刊



## 『ちいさなふたりのいえさがし』

作/たかおゆうこ 1,100円(福音館書店)  
クルミの中に小さなおじいさんとおばさんが住んでいました。ある朝、水汲みから帰ってみると、クルミの家に大粒のヒヨウが当たり、粉々になっていました。そこでふたりは新しい家を探し求めて出発しました。

## 幼年童話

## 『デイビッド・マックチーバーと29匹の犬』

文/マーガレット・ホルト  
絵/ウォルター・ロレイン 訳/小宮 由  
1,540円(大日本図書)  
デイビッドは、買い物の帰りに袋が破れてお肉を落としてしまいました。それにイヌがどんどん集まってきて、とうとう29匹に! デイビッドについてくるイヌたちに加え、人も集まり大きなパレードになりました。



## 『わすれもの』

作/豊福まきこ  
1,540円(BL出版)  
公園のベンチにヒツジのぬいぐるみがポツンと置かれています。通りかかったネコに「捨てられたの?」と聞かれますが、ヒツジは「違うよ。ちよっと忘れものになっているだけ」と、不安な気持ちを隠して答えます。



## 昔ばなし

## 『梨の子ペリーナ イタリアのむかしばなし』

再話/イタロ・カルヴィーノ  
訳/関口英子 絵/酒井駒子  
1,760円(BL出版)  
王さまに献上するナシが足りないからと、一緒にかごに入れられてお城に送られたペリーナ。賢くて働き者のペリーナですが、王さまから理不尽な難題を出され、魔女の宝ものをとってくる旅に出ます。



## 『チョコレート屋のねこ』

文/スー・ステイントン  
絵/アン・モーティマー 訳/中川千尋  
1,540円(ほるぷ出版)  
町の古ぼけたチョコレート屋に、気むずかしいおじいさんと1匹のネコがいました。ある日、おじいさんの思いつきで、ネズミの形をしたチョコレートをつくってみました。ネコがしっぽをかじってみたところ、それはそれは、おいしいではありませんか!





## 著作権保護コンテンツ

絵本で  
理解を  
深めよう

# 絵本作家さん こんにちは！

この人にあれもこれも



3月16日(土)  
14:00~15:30  
オンライン講座  
子どもと  
本を楽しもう!  
開催決定!!  
←くわしくはこちらから

## スギヤマカナヨさん

### 「好き」という力は、何より素晴らしい

ご自身の絵本を用いたワークショップや、さまざまな特性のある子どもたちとの交流など、絵本を通して、やさしく、深く、人々と関わり続けるスギヤマカナヨさん。視覚障がい児のための手で見る学習絵本「テルミ」(発行:日本児童教育振興財団、協力:小学館)の編集長としての一面にも注目です。

取材・文/伊藤絵里子 写真/石川正勝

#### PROFILE

スギヤマ・カナヨ  
静岡県生まれ。東京学芸大学初等科美術卒業。「ペンギンの本」(著/カー・ウータン博士 講談社)で講談社出版文化賞受賞。主な作品は「ノダリニッチ鳥 K・スギヤマ博士の動物図鑑」(絵本館)、「てがみは すてきな おくりもの」(講談社)、「ぼくのまちをつくらう!」(理論社)など。

こんなすてきな  
仕事はないです!  
締め切りがなければ(笑)

絵本の仕事でいちばんわくわくするのは、ゼロからイチにするときです。物語のアイデアは、自転車に乗っているときや、お風呂に入っているときに思いつくことが多いですね。すぽんって降りてくる感じで、「あ!!」と思ったら、急いでメモしています。

ちょっとしんどいな、と思うのは、締め切りです(笑)。締め切りがなければ、こんなにいい仕事はないと思います。編集者のみなさんはとてもやさしいので、そんなに厳しくはないんですけれど……。

大学の授業の課題では恩師から常々締め切りを守るように言われてきました。社会に出たら締め切りはいろんな人に影響するのだと。絵本は私ひとりですべてしているわけではなくて、編集者さんやデザイナーさん、印刷所さんなど、チームあってこそ。私が遅れてしまうと誰かに必ず迷惑をかけることになるので、いつも「がんばらなきゃ!」と気合いを入れています。



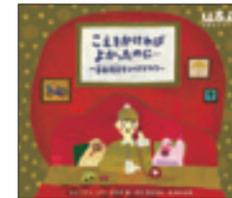
#### 『ありがとう、フォルカーせんせい』

作・絵/パトリシア・ボラック  
訳/香咲弥須子  
1,650円(岩崎書店)  
絵を描くことが大好きなトリシャは本が読めるようになるのを楽しみにしていたのに、文字も数字も読めません。5年生になったとき、フォルカー先生が特別な練習を始めてくれました。



#### 『ジュリアとともだちは どんなときでも』

訳/ジェリー・マーティン  
1,650円(イマジネーション・プラス)  
ジュリアは自閉症の女の子。おやつを食べたり、遊んだり、みんなと同じようですが、ちょっと違ったやり方をすることもあります。友だちは「ジュリアのスタイル」として、受け入れています。



#### 『こえをかければ よかったのに… ～身体障害者とのかかわり～』

編/NHK Eテレ「u&i」制作班 原作/西田征史  
アイくんが眠るときになって、あることを思い出して「どうすればよかったんだろう」と悩んでいます。昼間、車イスのお姉さんが困っていたのに、声かけられなくて通りすぎてしまったのです。



#### 『ひまわりがつきゆうって どんなところ? ～特別支援学級～』

編/鈴木友唯 各2,090円(ほるぷ出版)  
アイちゃんのクラスに、ときどきやってくるユウくん。ユウくんには、もうひとつクラスがあるのは、どうしてなんだろう? アイちゃんは「ココロのでんわ」で聞いてみました。



#### 『ともだち』

作/くすのきしげのり 絵/よしむらめく  
1,650円(小学館)  
隣の家に男の子の家族が引っ越してきました。みずきは勇気を出して挨拶しますが、男の子は知らん顔。やっと返ってきた変なしくさと思っただけ、[こんにちは]の手話だったのです。

#### 『障害があってもいっしょだよ!6 視覚障害のあるわたしの毎日』

文/マリ・シュー 絵/イザベル・ムニョス  
訳/上田勢子  
2,200円(大月書店) シリーズ既刊6作  
泳ぐのが大好きな女の子、ケイテンスは弱視で小さい字が読めません。盲学校では勉強のほか、点字の読み方や白杖の使い方を習っています。料理をするのも外遊びも大好きです。



#### 読みもの



#### 『ふるさとって呼んでもいいですか 6歳で「移民」になった私の物語』

著/ナティ 解説/山口元一  
1,760円(大月書店)  
親が日本で働くために、6歳のときに家族でイランからやってきたナティは、日本の暮らしで想定外なたくさん問題にぶつかります。ときにはまわりに助けられながら、生きる場所をつくっていきます。



#### 『ランカ にほんにやってきた おんなのこ』

作/野呂きくえ 絵/松成真理子  
1,430円(偕成社)  
10歳の女の子ランカは、遠い国から日本にやってきて、日本の小学校に入りました。言葉は全然わからないし、学校の様子も全然違うし、ひとりぼっちです。でも、「ありがとう」の気持ちは伝わりました。

← 公立図書館での具体的な取り組みは、P70からの「支援の必要な子と絵本」でご紹介しています。

# 著作権保護コンテンツ

## 『パッチワーク』

文/マット・デ・ラ・ペーニャ  
絵/コリーナ・ルーケン  
訳/さくまゆみこ  
1,870円(岩波書店)



いろんな形や色をつないでつくるパッチワーク。私たちひとりひとりが、出会ったもの、感じたこと、うれしいこと、悲しいこと、成功も失敗もすべてをつなげて、パッチワークのように各自の世界をつくりだしているのです。

## 『おとうさんを かして』

文/ホ・ジョンユン  
絵/チョウ・ウオニ  
訳/古川綾子  
1,760円(岩崎書店)



お父さんがいなくなってから、弟は大好きな野球をしなくなりました。寂しい気持ちをお姉さんにぶつけた弟。どうすれば元気になるのかと考えたお姉さんは、お父さんを借りに行くことを思いつきました。

## 『いつか きっと』

文/アマンダ・ゴーマン  
絵/クリスチャン・ロビンソン  
訳/さくまゆみこ  
1,650円(あすなろ書房)



どうしようもないこと、やっても無駄なことはたくさんあるけれど、希望は持ち続けましょう。ひとりぼっちだと感じて、夢を信じてくれる友だちは見つかるはず。あきらめなければ、いつかきっと変わります。

## 『雪のふしぎ はじめてのかかくえほん』

絵/いしがきわたる  
監修/ふるかわよしのり  
1,650円  
(発行:マイルスタッフ 発売:インプレス)



砂漠に雪が降るだけでなく、日本でも夏に雪が降っているなんて知っていましたか。雪合戦をしたり雪だるまをつくるには湿りけが必要なことなど、雪について、まだまだ知らないことをたくさん教えてください。

## 『ねこまがたけ 猫魔岳 ばけねこしゅぎょうのやま』

作/加門七海  
絵/五十嵐大介 編/東 雅夫  
1,870円(岩崎書店)



山にはネコの国があり、それは、全国にあるそうです。ネコは、そこで修行をするため、ときどき姿を隠すのだとか。数えきれないほどのネコが暮らし、人間は行けない場所に、大きな黒ネコの王さまが君臨しています。

## 『どうぶつ でんしゃ』

作/西村敏雄  
1,430円(あすなろ書房)



どうぶつでんしゃ、出発進行! ガタンゴトン、ダバンダバン、パオンパオンと電車がやってきました。さあ、乗っているのは誰かな? どうぶつでんしゃの行き先はどこでしょうか。

## 『ヌードル たべる プードル』

文/エマ・ヴィルク  
絵/タカハシモグ  
訳/坂本和加  
1,540円(NHK出版)



1枚のパン、チョコレートでおめかし。2匹のプードル、ヌードル食べてる! 3つ、4つ、5つと進み、最後は10個の卵、ゆかいにダンス。韻を踏む英語の原文の雰囲気伝わるような、声に出したくなる文です。

## 『まめさん こめさん おふろのひ!』

文/キム・ナンジ  
絵/チェ・ナミ  
訳/山口さやか、古川綾子  
1,540円(岩崎書店)



まめさんやこめさんたちがお風呂屋さんに行きました。いんげん豆、そら豆、黒豆さんのあとは、そばの実やあわの実もにぎやかに続きます。あずきや白米も体を洗ったら、湯船にどぼーん、お次は蒸し風呂です。

## 『ふゆのあとには はるがきます』

文/石井睦美  
絵/あべ弘士  
1,650円(アリス館)



ユキムシがとぶと、雪の季節がやってきます。ひらひらと舞うようだった雪は、やがて、もくもくわいてくるように降り、街も森も雪で覆われました。やがて、木の根元の雪がとけて、丸い輪ができると、それは、春が来る印です。

## 『くまのくま子さん』

作/つがねちかこ  
1,320円(赤ちゃん和妈妈社)



お母さんの具合が悪いので、くまさんがお手伝いに来てくれました。掃除、洗濯が終わったらごはんづくりです。枝豆はすりつぶす、ミニトマトとぶどうは小さく切る。料理は食べる人の口に合わせる事が大切です。

## 『トコトコ だいこん りょうりたび』

作・絵/よしたかゆみこ  
1,540円(絵本塾出版)



足があるダイコンは、農家のおじさんに売り物にならないと言われたので、おいしく料理してくれる人を探す旅に出ます。トコトコと歩いていると、おなかをすかせて動けなくなったウサギに出会いました。

## 『わたしは地下鉄です』

文・絵/キム・ヒョウン  
訳/万木森 玲  
1,980円(岩崎書店)



地下鉄は、ソウル市民の便利な移動手段です。市内を周回する地下鉄2号線にも、いろいろな人が乗っては降りていきます。おなじみの顔、久しぶりに乗ってきた子。目には見えないけれど、ひとりひとりの物語を乗せて、地下鉄は今日も走ります。

## 『あおを はっけんした ちいさな ヤン みならい えかきの おはなし』

作/ジャン-リュック・アングルベール  
訳/はしづめちよこ  
1,870円(イマジネーション・プラス)



絵描き見習いのヤンにまかされているのは、片づけと掃除だけ。日が暮れて先生が仕事を終えたあとは、ヤンの大好きな時間です。自由に色を重ねていくうちに、先生が求めていた青を見つけました。

## 『たいへん おまたせしました』

作/中垣ゆたか  
1,430円(赤ちゃん和妈妈社)



すべての料理が最高で特別なレストランに、おじいちゃんと孫がやってきました。注文したのは、いちごのショートケーキ。スタッフたちが、最高のケーキをつくるため、最高の材料を用意している間にも、時間は過ぎていきます。

## 『このほん』

作/かげやまとおる  
1,760円(偕成社)



本屋さんで絵本を見ていたはく。大きな黒い丸の中をのぞいてみると、鉛筆と絵の具が絵を描いていました。見たことのない機械も動いています。この絵本ができるまでの、不思議な冒険の始まりです。

## 『きょうも かぜは いろづいて』

作/阿部海太  
1,980円(岩波書店)



風は、どこから来て、どこへ行くのでしょうか。今日までも、今日からも、ずっと続いていく営み。時の流れとともに、光は移ろい、風もさまざまな色を見せて、感じさせてくれます。そこに見えるのは、生命の不思議でしょうか。

## 『ちっちゃくたって』

作/デイヴィッド・ウォーカー  
訳/ギョウ・ヤマグチ  
1,760円(イマジネーション・プラス)



ちっちゃくて、臆病なライオンがいました。大きくなったら、怖いことはなくなるでしょうか。友だちのちっちゃな鳥が、木から下りられなくなったとき、助けたのは、大きなライオンではなく、ちっちゃなライオンでした。

## 『すこしとおくへ』

作/おおちくにひろ  
絵/きくちちき  
1,650円(あかね書房)



イヌのくろとほくは、いつも一緒です。ある日、走り続けるくろを追いかけついで、いつもと違う風景が見えてきます。街を過ぎ、野原を越えた先に広がっていたのは、広い海でした。

もう読んだ?  
**新刊 100!!**

2023年9~11月に発売された新刊絵本の中から、読みきかせにもおすすめの100冊を選びました。子どもたちとすてきな時間を過ごしてください。

※出版社五十音順 ※㊦は右開きの本。  
㊦マークは乳幼児から、㊦は中・高校生も楽しめる本です。

**定期購読者限定プレゼント**  
新刊絵本プレゼントの詳細は、このページの下欄をご覧ください。

※JPIC直販の定期購読の方に、抽選で新刊絵本100冊から1冊をプレゼントします。巻末のアンケートハガキまたはホームページのアンケートフォームから応募してください。

# 著作権保護コンテンツ

## プログラム (各 10~15分) 小学校高学年

### 4月 テーマ: 命がうまれる場所 巣

#### ①「鳥の巣ものがたり」

文/絵/鈴木まる  
1,540円(備成社)  
春に見かける鳥の巣。空には国境がないのだと感じさせてくれます。生命の神秘をじっくり味わいましょう。



#### ②「すばこ」

文/キム・ファン  
絵/イスンウォン  
1,650円(はるぶ出版)  
巣箱の起源が親しみやすい語り口で描かれます。人間の生活、生きものたちの住むところについて考えさせられます。



### 5月 テーマ: 田植えの季節

#### ①「くわすにようぼう」

再話/稲田和子  
画/赤羽末吉  
990円(福音館書店)  
蔵の米を食べた女房の正体とは? 端午の節句に邪気をはらうとされるヨモギとショウブがダイナミックな絵で迫ってきます。



#### ②「1つぶのおこめ さんすうのむかしばなし」

作/デミ  
訳/さくまゆみこ  
2,090円(光村教育図書)  
ある女の子の知恵でお米がどんどん増えていく痛快なおはなし。あらかじめ数字の単位をすらすら言えるようにして、観音開きのページを見せる練習をしておきましょう。



### 6月 テーマ: あちらこちらにカエル

#### ①「かようびのよる」

作/絵/デヴィッド・ウィズナー 訳/当麻ゆか  
1,540円(徳間書店)  
ある夜起こった不思議なできごと。文字が少ない分、絵をしっかり見せてユーモラスなカエルの表情にも注目しましょう。



#### ②「アカメアマガエル」

文/ジョイ・カウリー 写真/ニック・ピショップ  
訳/大澤 晶 監修/富田京一  
品切れ中(はるぶ出版)  
熱帯に住むカエルの生活と森の写真は強い印象を残すでしょう。鮮やかな色彩で遠目がきます。



#### ③「かえるの平家ものがたり」

文/日野十成 絵/斎藤隆夫  
1,870円(福音館書店)  
教科書などで目にする平家物語が、源氏をカエル、平家をネコに見立ててテンポよく語られます。大型の本なので持つ位置に気をつけましょう。



(古市未央)

## プログラム (各 10~15分) 小学校中学年

### 4月 テーマ: 図書館開き 本開き

#### ①「山のとしょかん」

文/肥田美代子  
絵/小泉るみ子  
1,430円(文研出版)  
おばあさんの懐かしい絵本の箱を開けたのは誰でしょう。おばあさんのドキドキ、男の子のワクワクをくみとって読み分けましょう。



#### ②「よるのとしょかん」

作/カズノコハラ  
訳/石津ちひろ  
1,540円(光村教育図書)  
図書館の決まりをやさしく教えてください。楽しく図書館が使えるように、読み終わったあとで、約束の確認をするのもおすすめです。



### 5月 テーマ: いろいろ おうち

#### ①「それならいいいえ ありますよ」

作/澤野秋文  
1,540円(講談社)  
いい家探し屋のネコに、なまけものごんたがすすめられた家は、どんな家? ごんたの心の移り変わりをテンポよく。



#### ②「ちいさなふたりのいえさがし」

作/たかおゆうこ  
1,100円(福音館書店)  
小さなおじさんとおばあさんが、安心して住める家を探すおはなし。ちょっと残念、でも次へ、のワクワクの繰り返しを楽しんで。



#### ③「ほうきぼしのまほう」

作/ジョー・トッド=スタントン  
訳/まつかわまゆみ  
1,650円(評論社)  
聞き手が主人公になりきれよう、絵をじっくり見せましょう。間を大切に。



### 6月 テーマ: カエルの力

#### ①「かえるのほんや」

作/やぎたみこ  
1,430円(PHP 研究所)  
みんなに本が届くまでの仕組みがよくわかる本。読みがき、本をつくる仕事場、取材現場など、場面に合わせて表現しましょう。



#### ②「あまがえるのかくれんぼ」

作/たてのひろし  
絵/かわしまはるこ  
1,320円(世界文化社)  
アマガエルの擬態が、丁寧に描かれた物語。どこにいるのか、絵の中をみんなで探してみよう。時間があつたら、ぜひあとがきも。



(増田穂里)

## プログラム (各 10~15分) 小学校低学年

### 4月 テーマ: 春、出会う

#### ①「さくらのふね」

作/さくちさき  
1,870円(小峰書店)  
春を知らせに TENTUMシが桜の船で川を下っていきます。ゆっくり読んで、特に終盤の部分は時間をとって桜並木を堪能しましょう。



#### ②「はるのクリスマス」

作/ティエリー・デデュイ 訳/やまとみき  
2,310円(化学同人)  
春にやるクリスマスは大成功! よかったねハリネズミくん。仲間の思いやりに感謝、感謝。



#### ③「ねこのなまえ」

作/いとうひろし  
1,430円(徳間書店)  
自分の名前に込められた願いを知ってる? 聞いてみようよ。親子の対話が始まる1冊です。



### 5月 テーマ: 母の日

#### ①「おかん」

文/平田昌広 絵/平田景  
1,540円(大日本図書)  
おかんーおかんー。全ページにおかんの文字が並びます。リズムカルに読むと good です。



#### ②「くもりのちはれ せんたくかあちゃん」

作/絵/さとうわきこ  
1,100円(福音館書店)  
よりパワーアップした、せんたくかあちゃん! かみなりさんまで大洗濯の仕事ぶりが見事。



#### ③「おかあさん ありがとう」

作/絵/みやにしたつや  
1,430円(金の星社)  
いちばんうれしい母の日のプレゼントはこの言葉かも……。今年も心をこめて伝えましょう。



### 6月 テーマ: 雨の日

#### ①「ふしぎなカサやさん」

作/絵/みやにしたつや  
1,540円(金の星社)  
こんな傘だったらお天気の日でも開いちやう。あなたの欲しい傘は? と尋ねてみて。



#### ②「あめのひ きのこは…」

原作/ステューブ 再話/ギンズバーグ  
絵/アルエーゴ、デュイ 訳/くりやがわいこ  
1,540円(備成社)  
アリとチョウチョウとネズミとスズメとウサギがきのこへ雨宿り。こんなにたくさん入れる? なんと、きのこにはある秘密がありました。



#### ③「ぼく、あめふりお」

作/大森裕子  
1,100円(教育画劇)  
あのこの願いを叶えた君は、立派なてるてる坊主。心が晴れ晴れとしてくるおはなしです。



(岩井淳子)



対象別おはなし会のプログラムです。ここで紹介する絵本や紙芝居は、ご家庭での読みきかせにもおすすめです。ブックガイドとしてもご活用ください。

## 行事絵本・季節の絵本

### 新学期

#### ①「1ねん 1くみの 1にち」

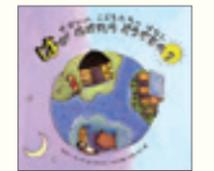
写真・文/川島敏生  
1,760円(アリス館)  
朝、登校してから、下校するまで、1年生のクラスの1日の様子を追った写真絵本。夜の学校の様子も見られます。



### 虫歯予防

#### ①「せかいの こどもたちの はなし はが ぬけたら どうするの?」

文/セルビー・ピーラー 絵/ブライアン・カラス  
訳/こだまともこ 1,694円(フレーベル館)  
乳歯から永久歯へ、歯は生え変わります。乳歯が抜けたらどうするか? 世界64の地域から集めた、言い伝えや風習を紹介。それは、永久歯を大切にすることを教えてくれます。



### 紙芝居

#### ①「たんたん とんとん」

脚本・絵/仲川道子 1,650円(童心社)  
さつちゃん、お母さんの肩を「たんたん とんとん」したら、お母さんは「いいきもち!」と大喜び。すると、それを見ていたネコのミーちゃんやカメくんが、やってきました。



### 紙芝居

#### ①「かたつむりさん こんにちは」

脚本/高家博成 絵/横内 襄  
2,090円(童心社)  
雨の日、ひろくんは塀の上にカタツムリを見つけました。「大きな殻だね、重くないの?」。不思議な時間の中、カタツムリのことをいろいろ知ることができました。



### 紙芝居

#### ①「とのさまからもらった ごほうび」

脚本/山路愛子 絵/渋谷正斗  
2,420円(童心社)  
殿さまのおふれにこたえた男が、ほうびにもらったのは、父親に会える手箱。でも、ふたを開けるのは2年後と言われます。男は、父親に会うことができたでしょうか。



(安富ゆかり)

# 保育者のたまごたちと絵本

保育現場の先生たちは、養成校で絵本についてどのように学んできたのでしょうか。和光大学の事例を山口理沙さんに伺う2回目です。

取材文 荒木晶子



山口理沙  
やまぐち・りさ

和光大学現代人間学部心理教育学科講師。専門研究分野は教育思想・幼児教育。米国で心理学や社会学を学んだのち帰国。教育学を志す。聖セシリア女子短期大学准教授、洗足子ども短期大学専任講師などを経て2023年より現職。



黒板にイラストをサラサラッと描くクリハラタカシさん。



絵本の創作方法について、プロジェクターを使って説明。

## 学生には、センスオブワンダーが詰まった絵本の扉をノックし続けてほしい

### 絵本作家・クリハラタカシさんの特別授業を開催

授業で数カ月絵本に触れたのち、実際に絵本を描いている方にお話を聞く機会があればと思い、絵本作家のクリハラタカシさんをお招きして、特別授業「保育とともにある絵本・子ども・ことば」を行いました。

クリハラタカシさんは、絵本以外にもマンガ、イラストレーション、アニメーションと幅広く活躍されていて、『ぱたぱた するする がしーん』『日曜日のはじめちゃん』（ともに福音館書店）、『これなんなん？』（くもん出版）、『こうえん』（偕成社）など、多数の絵本を出版されています。クリハラさんの作品は、それぞれに事情や立

場はあるけれど、悪い人はひとりもない世界が描かれていて、とてもすてきだと以前から注目していました。学生たちは、ちょうど子ども世代と親の世代の間において、世界を新鮮な目で見る子ども「センスオブワンダー」がピンとこない年代です。でも、4年間学んで保育者になるころには、それに気づいてほしいと思っていました。クリハラさんの作品には、子どものセンスオブワンダーがあふれているので、ぜひ呼びびしたかったのです。

### 絵本への新たな視点が得られた貴重な経験に

30数名の学生が参加した特別授業は、「クリハラさんを囲む会」

きし、さらにライブ感のある構成で特別授業を行いたいと考えています。子どもの発達の様子がさまざまなに描かれている『日曜日のはじめちゃん』を教材として積極的に使っていきたいと、授業の構想を練っています。

### 絵本の力を知った原点は犯罪心理学の学び

私はもともと、米国の大学で犯罪心理学を学んでいました。その中で、罪を犯したのち、社会に復帰した人たちに絵本を読みかかせする機会がありました。本を読んでいると彼らが涙を流すのです。なぜなのか尋ねてみると、それは、これまでの人生で絵本を読みかかせてもらったことがないとのことでした。絵本を読みかかせてもらうとは、誰かに大事にしてもらうという一つの行為です。残念ながら家庭で経験できないとしたら、幼稚園や保育園の先生は子どもにそのような機会を与える最後の砦となるのではないかと、そして、絵本には大きな力があるのではないかと思いました。現実になんかことがあ

ても、絵本の中は、「帰ってきてよかった！」と思える世界です。それを保育者が安定して読みかかせて、最後に「よかったね」と共感することが、子どもたちの未来に何かしらいい影響を与えるのではないかと思います。

### 絵本に出合っただけでなかった学生こそ、その魅力を伝えたい

現在は、子どもの思考プロセスに興味があり、懇意にしている保育園でさまざまな観察を行っています。その中で印象深かったのは、お友だちともめた男の子が、「悲しいから泣くのかな？」と尋ねてきたら悲しいのかな？と尋ねてきたことです。子どもは何もわかっていないようでも、大人よりずっと感性が豊かなのかもしれないと感じたことでした。

そんな大人が置いてきてしまった感性「センスオブワンダー」が、絵本にはいっぱい詰まっています。学生たちが保育者になったとき、日々いろいろな仕事がある中の一瞬でも、それを思い出してくれたらうれしいです。その思いと自身

の学生時代の経験から、絵本の魅力を授業で伝えていきたいと思っています。

学期の最後には、学生から「絵本にまた出会い直せてうれしかった」という感想のほか、「今まで絵本のページの意図はあまり考えていなかった」という声も聞かれました。「表紙だけではなく、左右に開いて、裏表紙も含めて全部が絵本」ということや、「絵本が縦書きか横書きかによって、左右どちらの手で持つとよいか」という、絵本の読み手としての視点も得られたようです。

これまで絵本が身近になかった学生もいますが、そういう学生ほど絵本を熱心に読みこんでいます。彼らを意識して授業をするのも大事にしたいと考えています。絵本に出合っただけでなく、人を取りこぼしたくないのです。

学生たちにまた種がいくつ発芽するのか、その時期はいつなのかはわかりません。学生も、「これはどこにつながるんだろう」と思っているかもしれませんが、それでも、絵本の扉をノックし続けてほしいと願っています。